

3 事業の概要

本年度の水道事業は、「仙台市水道事業基本計画（令和2年度～令和11年度）」と、その実施計画にあたる「仙台市水道事業中期経営計画（令和2年度～令和6年度）」に基づき、「水道システムの最適化」、「持続可能な経営」、「関係者との連携強化」に取り組みながら、お客さまが実感できる良好な水質の実現と水道水の安定供給に努めてきた。

事業実績については、年間総配水量が1億1,977万4千立方メートル、前年度比33万3千立方メートル（0.3%）減、年間有収水量が1億1,272万1千立方メートル、前年度比32万4千立方メートル（0.3%）減となり、有収率は前年度と同率の94.1%となった。

経営面については、AI技術を用いた管路の漏水履歴や埋設環境等の因果関係の分析、劣化予測による、将来リスクや長期的な更新需要の予測精度向上に取り組むとともに、老朽化した管路の更新、水需要に合わせた施設の再構築など、経営基盤の強化に向け、アセットマネジメントの取り組みを進めた。

建設改良事業については、配水管整備事業で、配水支管の更新工事などを行い、事業費85億7千7百万円を支出し、配水管延べ34,647メートルを布設した。また、施設整備事業では、配水施設の耐震補強工事や非常用自家発電設備更新工事等の災害対策関連事業に加え、中原水系苦地沈砂池油分計設置工事等の安全対策関連事業などを行ったほか、塩竈市との共同浄水場整備のための基本設計業務を委託するなど、事業費28億6千7百万円を支出した。

財政状況については、収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）において、総収益277億3千9百万円に対し、総費用235億7千5百万円で、差引41億6千4百万円の純利益となった。

今後は、給水人口が減少局面を迎え、水需要の更なる縮小が見込まれる中、拡張期に集中的に整備してきた多くの施設が更新時期を迎え、建設改良費の増加が見込まれるほか、諸物価の高騰の影響など事業環境はさらに厳しさを増すことが予想される。引き続き、計画的かつ効率的な事業運営に努め、持続可能な経営基盤の強化とお客さまサービスの向上を図り、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて、一層信頼され、地域社会の発展に貢献できる水道事業の構築を目指していく。